築地本願寺
東久留米会館
会　報

ともしび

—TO MO SI BI—　第249号

2017(平成29)年1月

お正月

皆さま、新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申しあげます。

新年を迎えると、気持ちも新たになり今年の抱負や目標を掲げる方もおられるでしょう。当会館としては、より多くの方々に周知いただき、今まで以上に多くの方々にお参りいただきたいという思いを持ちながら、日々法務に従事しております。

さて、日本古来より親しまれてきたお正月も時代とともに状況は変化しています。私が子どもの頃は、コンビニなどありませんでしたから、年末に近所のスーパーへ行き、必要な物を買いだめしておくというのが恒例でした。特にその中でも、お菓子を大量に買って貰えるのが子ども心にも嬉しかったものです。

そして元日を迎えると、町中のほとんどの店は休みになり、それぞれ家庭の中でゆっくりと正月を過ごしていました。

しかし残念ながら、現代では利便性は増したものの、どこの店も元日から営業している所が多く、ゆっくりとお正月を迎えるという雰囲気ではないように思います。また、クリスマスやハロウィンなど西洋文化が日本にも取り込まれるようになり、日本独自の文化の良さが失われているようにも感じます。

私の自坊の山口のお寺では、元日の朝に家族全員が揃って、父の導師で正信偈をお勤めすることになっていました。普段の朝は、各々本堂でお参りしていました（していない時もありました）が、元日だけは揃ってお勤めしていたのです。

父が磬（きん）を打って、

「帰命無量寿如来～」

と調声（ちょうしょう）し、

「南無不可思議光…」と続いて正信偈のお勤めが始まります。約３０分間、寒い本堂で身を震わせながらのお勤めで、子どもの頃はとても長く感じ、頭の中は早く終わっておせちとお雑煮を食べ、お年玉をもらうことしか考えられないという状況でした。

正信偈は、宗祖・親鸞聖人が著された『教行信証』の一節で、１２０句の言葉で構成された、浄土真宗のみ教えを端的に示されたお経です。その中でも特に大切なのが、最初の２句である、

「帰命無量寿如来（きみょうむりょうじゅにょらい）　南無不可思議光（なもふかしぎこう）」

なのです。

帰命と南無は「まかせる」という意味があり、無量寿如来と不可思議光は、阿弥陀如来のはたらきを表しています。つまり、この２句を意訳すると、「限りない命と思いはかることのできない光のはたらきの阿弥陀如来に、私はおまかせいたします。」となり、親鸞聖人が阿弥陀如来を讃えたお言葉になります。

阿弥陀如来のはたらきは、自分を超えた大いなるものを表します。自己中心的な考えしかできない私たちが、大いなるもののはたらきをそのまま受け入れ、報恩感謝のお念仏を申すことが、信心の生活といえるでしょう。

本年もどうぞ、皆さまお揃いで当会館へお参りください。家族一同、心よりお待ち申しあげます。

仏事あれこれ

仏事のQ&A

Q．本堂に入ってまず行うことは？

A．本堂に入る時は、まず一礼を

お寺に来られる時の礼儀として知っておいていただきたいことは、まず、入ったところで一礼するということです。これは、本堂が仏さまの空間だからです。私たちの生活する世界は、自己中心的な価値観に満ちています。それに対して、仏さまの浄土は我欲を離れて、どこまでも分け隔てのない平等心に満ちた空間です。「本堂に入る」というのは、俗な空間から聖なる空間に足を踏み入れることなのです。いわば、本堂の入口の扉は聖と俗の結界と言えるでしょう。

その結界を超えることを自分自身に意識させる行為が一礼です。したがって、本堂に入ったならば、仏さまがおられるところであることを自覚しつつ、世俗の価値観を持ち込まないことが大切でしょう。

ところで、浄土真宗の本堂は、内陣と外陣に分かれているのが一般的です。巻障子の奥にある空間が内陣で、ここには、ご本尊の阿弥陀仏をはじめ、宗祖親鸞聖人や蓮如上人の御影が安置され、それらにはさまざまな荘厳具でお飾りされています。この内陣へは、通常、僧侶でもお勤めの時や仏さまのお給仕をする時以外入りません。それに対して、外陣は、内陣にお飾りされた浄土の情景を、俗なる私たちが間近に感じながら、仏さまのお心に触れるために設けられた空間です。すなわち、仏法を聴聞する人なら誰でも、浄土を表す本堂内に入ることができ、そのための場まで設けられているのが浄土真宗の本堂なのです。

そのためにも、本堂に入る時には一礼すること。また、本堂から出るときや山門の出入りの際も同様に、一礼しましょう。

『新・仏事のイロハ』より抜粋

書籍紹介

浄土真宗はじめの一歩

「キーワードで学ぶ浄土真宗の教え」「浄土真宗の先祖供養とは？」をはじめ、お仏壇のお飾り、焼香の作法、おつとめ、浄土真宗の葬儀などを解説。本書を手に、浄土真宗のはじめの一歩を踏み出そう。

定価：1200円（税別）

※お求めは本願寺出版社へ

TEL0120-464-583

平成29年の年回表

（ご法要のお申し込みをお忘れなく）

平成２９年　年回表	
１周忌	平成２８年
３回忌	平成２７年
７回忌	平成２３年
１３回忌	平成１７年
１７回忌	平成１３年
２３回忌	平成　７　年
２５回忌	平成　５　年
２７回忌	平成　３　年
３３回忌	昭和６０年
５０回忌	昭和４３年

１２月行事の様子

★第3回キッズサンガ子ども会　12月10日(土)　10時～12時

風が冷たく寒い日でしたが、元気な子供たち６名が集まってくれました。
お釈迦さまのすごろくで遊んだ後、温かい焼き芋をみんなで食べました。

仏さまのお話

焼き芋の下準備①

焼き芋の下準備②

すごろくのコマを作りました！

大きなサイコロを振ってすごろく

出来上がった焼き芋の試食会

★常例法座　12月18日(日)　13時～15時

冬晴れで穏やかな気候のもと、常例法座を開催いたしました。正信偈のお勤め、
ご講師・南條了瑛師にご法話いただき、２０名の皆さまがお参りされました。

若手布教使のホープ・南條先生のご法話は、親鸞聖人のご和讃を通じ、阿弥陀様の願いについて、やさしくお話しいただきました。

勤行「正信偈」

南條了瑛師

東久留米会館の 行事案内 —Schedule—

▶ １月の行事予定

元旦会

2017年1月1日(日) 午前7時～

新しい年を仏さまとともにお迎えいたしましょう。
※今年度より朝のお勤めになります。

親鸞聖人御命日法座・新年会

ご講師　松本 智量師
（東京都 延立寺）

1月15日(日) 午後1時～

新年会に参加を希望される方は、同封の用紙にてお申込みください。

親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

1月16日(月) 午前7時～

月に１度、朝のお勤めにお参りしませんか？
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

▶ ２月の行事予定

如月忌参拝

2月7日(火) 午後1時～

九條武子さまのご命日にあたり、
墓所のある和田堀廟所でお勤めされます。

常例法座

ご講師　柏倉 学法 師
（千葉県 真宗寺）

2月12日(日) 午後1時～

お気軽にお参りください。

今月のお仏飯米のご進納

北川 康雄様　木村 ひさえ様

年末のご進納

神谷 正弘様　村中 秀行様

ありがとうございました。

お晨朝お休みのお知らせ

1月4日（水）・5日（木）・
11日（水）
お休みさせていただきます。

編集後記

当会館にて、２回目の新年を迎えることとなりました。振り返ると、あっという間に1年が過ぎたように感じます。年齢のせいでしょうか。今年もよろしくお願いいたします。（安）

東久留米会館会報　「ともしび」　第２４９号
発行日　２０１７年１月１日
発行者　安邉 泰教
住　所　東京都東久留米市柳窪5-8-30
電　話　０４２-４７４-６７８７